

待降節第二主日

2010.12.5

マタイ 3・1-12

今日の待降節第二主日の福音は、私たちを洗礼者ヨハネのもとに誘います。ヨルダン川のほとりのユダの荒れ野に現れた洗礼者ヨハネのもとに集って来た人々がそうしたように、私たちも今日の福音を通して響く、洗礼者ヨハネのメッセージに耳を傾けたいと思います。「悔い改めよ。天の国は近づいた。」これが、今日の福音を通して、私たちの上にも響く洗礼者のメッセージです。あの時、ヨハネのもとに集って来た人々の心を揺さぶったように、このヨハネの声が私たちの心に届き、私たちの心をも揺さぶることを願いたいと思います。

「悔い改めよ。天の国は近づいた。」洗礼者のこの叫びが人々の心を揺さぶったのは、「天の国が近づいている」ことを告げているからです。悔い改めが求められるのは、「天の国が近づいている」からです。それまでの自分たちの生き方、自分たちのありようを反省し、悔い改めなければならないのは、近づいている天の国に向かって、ふさわしい備えをしなければならないからです。「斧はすでに木の根元に当てられており、よい実を結ばない木はみな、切り倒されて火に投げ込まれることになる」からです。あの時、人々の心を揺さぶった、今日の福音の洗礼者ヨハネのメッセージが持つ切迫感が私たちの心にも伝わっているのでしょうか。

「天の国が近づいた」とは、この地上に住む私たちが作り出してしまった、天と地の隔たりを踏み越えて、天におられる神がその全能の力をもって、この地上に生きる私たちのもとに来ようとしておられるということです。この地上に住む私たちが、うやうやしく奉ることによって、天の彼方に追いやってしまっていた神が、その全能の力をもって、この地上に来ようとしておられるということです。「天の国が近づいた」という洗礼者のメッセージは、この私たちの世界と、そこに生きる私たち一人ひとりのもとへの神の訪れを告げているのです。神がそこにおられるところ、そこには神の全能の力がおよび、そこには天の国が広がっているからです。そのようにして、今や天の国は、私たちに住むこの地上に近づいていると洗礼者ヨハネは告げているのです。

私たちに向かって近づいている天の国を迎え入れるためには、悔い改めが必要です。そのための悔い改めとは、洗礼者の呼びかけに応じて、私たちの心を近づいている天の国に向けなおすということです。私たちのもとに来ようとしておられる神に向かって、私たちの心を整えるということです。「荒れ野で叫ぶ者の声がする。主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。」と旧約の預言者が告げていた使命を果たすために、今や洗礼者ヨハネは荒れ野に現れ、その声を響かせ

ているのです。

洗礼者ヨハネの声を聴いた人々は、各々の自分たちの罪を告白し、ヨルダン川に身を浸して洗礼を受けたということです。悔い改めるとはこのようなことです。近づいている天の国を迎えるために、悔い改めて、罪を告白するのは、天の国とそこにおられる神を信じると言いながら、その信仰を裏切って、おおよそ、天の国ともそこにおられる神とも無縁な者のように生きてきた私たちがいるからです。神を信じ、神を認めると言いながら、その神を無視して生きてきた後ろめたさが、私たちの生き方を空虚なものとし、私たちのいのちの根源を蝕んでいることに気づかされたからです。神を無視し、神と無縁な生き方をもって作り上げられた私たちの世界と、そこに生きる私たち自身のあり方が持つ恐ろしさと悲惨さに気づかされているからです。

重い皮膚病を患っていたシリアのナアマンが預言者エリシャのことばに従って、七度ヨルダン川で身を清め、生まれたての赤子のように清められたように、洗礼者のことばに従ってヨルダン川で洗礼を受けた人々のように、私たちも清められることを求めているはずですが、近づいている天の国に向かって、こちらからも一歩踏み出すために、私たちもこのような足がかりを必要としているはずですが、「悔い改めにふさわしい実をむすべ。」という洗礼者のことばは、私たちにもそのようなことを求めているのです。

「天の国は近づいた。」という今日のマタイ福音書に響く洗礼者のことばは、同じマタイ福音書のイエスの宣教活動の開始を告げるイエスご自身のことばと重なっています。今日の福音に響く洗礼者ヨハネのことばは、彼自身が「わたしの後から来られる方」「わたしは、その履物をお脱がせする値打ちもない。」と言って、指し示しているイエス・キリストに向けての私たちの回心を促します。イエス・キリストを信じる者たちとされた私たちにとって、「天の国は近づいた。」というメッセージは、イエス・キリストご自身の口から発せられたことばとして、私たちの中に、私たちの間に天の国を到来させたのです。

全ての人の罪を一身に背負って、全ての人のために十字架につけられて死なれた、神の子イエス・キリストが示された神の無限の愛と、その御子イエス・キリストを死者の中から復活させられることによって示された、死をも超える神の愛の勝利によって、洗礼者ヨハネが告げていた「天の国は近づいた」という神からのメッセージは、単なる予告に終わるのではなく、イエス・キリストによってこの世界にもたらされた現実を告げるメッセージとなったのです。

イエス・キリストを信じる者とされた私たちにとって、そこに身を浸して清められるべきヨルダン川は、私たちがすでにそこを通り抜けたものとなったの

です。私たちの悔い改めの取るべき道は、ヨルダン川での洗礼者の洗礼が予め指し示していた、私たちがイエス・キリストの御名によって受けた洗礼の恵みに立ち戻ることにあります。もう一度そこに立ち戻って、私たちの中にある、天の国の蔵に収められることのない籾殻に過ぎないものを焼き払っていただかなければなりません。洗礼の恵みの中で受けた聖霊の実を豊かに結ぶことが出来るよう願い求めなければなりません。そのためにもこの待降節に行われる黙想会に参加し、私たちの罪を告白してゆるしの秘跡にあずかり、洗礼の恵みに立ち返りたいと思います。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高